

二〇一九年度・学力検査問題【国語】

(高校第二回)

注意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は12ページで□・△・○の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろつていらない場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。
また、特に指示のないかぎり、句読点等も一字に數えます。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

雑草とは、勝手に生えてくるものであつて、わざわざ雑草の種を播まいて育てる醉狂な人は少ないだろう。

私は雑草の研究をしているので、雑草を育てる。ところが、雑草といふのは、いざ育てようと思うと、なかなか簡単ではない。

まず、種子を播いても芽が出ないのだ。

野菜や花の種子であれば、土に播いて水を掛けてやれば、数日のうちに芽が出てくる。ところが、雑草の場合は土に播いて水を掛けてもなかなか芽が出てこない。そうこうしているうちに、播いてもいないう雑草の方が芽を出してしまつたりするから、難しい。

植物の発芽に必要な三つの要素は何だろうか？

教科書には、「水、酸素、温度」と書いてある。

そのため、暖かい時期に、土を耕して空気が入りやすいようにしてから種子を播き、水を掛けてやれば、水と酸素と温度の三つが揃つて芽が出てくるのである。

ところが、雑草はこの三つの要素が揃つても芽を出さない。

それは、雑草が「休眠」という性質を持つからなのである。

「休眠」というと休眠会社や、休眠口座など、働いていないという良くないイメージがある。何しろ、「休眠」は「休む」「眠る」と書くのだ。

たくましい雑草の戦略が、「休む」「眠る」というのは、情けないような気もするが、そうではない。「休眠」は雑草にとつて、もつとも重要な戦略の一つなのである。

休眠は、すぐには芽を出さないという戦略である。

野菜や花の種子は、播けばすぐに芽が出てくる。野菜や花の種子は人間が適期を見定めて播いてくれる。そのため、すぐに芽を出すことがとくさくなのである。芽を出す時期は、人間が決めているのだ。

しかし、雑草の種子は発芽のタイミングを自分で決める必要がある。雑草の種子が熟して地面に落ちたとしても、それが発芽に適しているタイミングとは限らない。たとえば、秋に落ちた種子が、そのまま芽を出してしまうと、やがてやつてくる厳しい冬の寒さで枯れてしまう。また、まわりの植物がうつそうと茂つていれば、芽を出しても光が当たらずには枯れてしまう。

いつ芽を出すかという発芽の時期は、雑草にとつては死活問題なのである。

もつとも、種子が落ちた時期と発芽に適した時期が異なるということは、雑草以外の野生植物にとつても重要な問題である。そのため、雑草を含む野生の植物は、種子が熟してもすぐには芽を出さない仕組みを持っている。この仕組みは「一次休眠（内生休眠）」と呼ばれている。

一次休眠は発芽に適する時期を待つための休眠である。たとえば、種皮が固くて水分や酸素を通さないようになつており、時間が経つと皮がやわらかくなつて酸素が通つて芽を出すような「硬実種子」と呼んだ。

ばれる種子もある。アサガオの種子に、やすりやナイフで傷をつけると芽が出やすくなるのは、アサガオが硬実種子だからである。

また、春に芽が出る種子は、「春」という季節を感じて芽を出す。種子が熟した秋も春と気温はよく似ている。小春日和こはるびよりという言葉があるようになつても、春のように暖かな日はある。種子はどのようにして、春であることを知るのだろう。

植物の種子が春を感じる条件は、「冬の寒さ」である。冬の低温を経験した種子のみが、春の暖かさを感じて芽を出すのである。

見せかけの暖かさは、やがて訪れる冬の寒さの前触れに過ぎない。長く寒い冬の後にだけ本当の春がやつてくる。だから種子は見せかけの暖かさにぬか喜びすることなく、じつと冬の寒さを待っているのである。冬の寒さ、すなわち低温を経験しないと発芽しない性質は「低温要求性」と呼ばれている。低温に耐えるのではなく、低温を必要とし要求しているのである。

「冬が来なければ本当の春は来ない」

何だか人生にも示唆的な、種子の戦略である。

このように、時間が経つた種子は休眠から覚めて芽を出そうとする。

しかし、雑草の種子は春だからといって芽を出せばよいという単純なものでもない。弱く小さな雑草の芽生えにとつては、いつ芽を出すかが生死を分ける。そのため、環境を複雑に読み取つて、発芽のタイミングを計るのである。芽を出そうとしても、発芽には適さないかも知れない。そんなとき、雑草の種子は再び休眠状態になる。これは「二次休眠（誘導休眠）」と呼ばれている。

人間でいえば、一度、目を覚ましたものの時計を見るとまだ早かつたので二度寝してしまうような感じだろうか。その後、私たちがふとんの中で寝たり目が覚めたりを繰り返すように、雑草種子は、覚醒と二次休眠を繰り返しながら、発芽のチャンスを窺つていくのである。一方、覚醒して発芽できる状態になつても、発芽に必要な、水や酸素や温度がなければ種子は発芽しない。この状態を「環境休眠（強制休眠）」と言う場合がある。ただし、これは目を覚ましている状態であるため、本来の休眠ではない。

雑草の休眠の仕組みは極めて複雑であると言われている。雑草は季節に従つて規則正しく芽を出せば良いというものではない。雑草の生える環境にはよそく不能な変化が起こる。春になつたからといつて発芽のチャンスだとは限らないし、いつづけてきなチャンスが訪れるかもわからない。そのため、雑草は一般的な野生の植物よりも、より複雑な休眠の仕組みを持っているのである。

雑草を育てることの難しさは、芽が出ないことだけではない。たとえ、結果的に芽が出たとしても、芽が出るタイミングがバラバラなのだ。

休眠は、雑草にとつては重要な性質である。しかし、雑草のやつかなものでもない。弱く小さな雑草の芽生えにとつては、いつ芽を出する。休眠したり、覚醒したりというタイミングがまちまちで、ある種子が覚醒していくても、別の種子は休眠していたりするのだ。ちなみに、種子から根や芽が出ることを「発芽」と言い、地面の上に芽が出てくることを「出芽」と言う。発芽のタイミングがバラバラ

だから、地面の上に出芽してくるのも一斉ではない。次から次へとだらだらと出芽してくるのである。

野菜や花の種子は、種を播けば一斉に芽が出てくる。どれだけの種子が発芽したかは「発芽率」で表されるのに対し、どれくらいそろつて発芽したかは「発芽勢」⁵⁾という言葉で表現される。野菜や花の種子の発芽のタイミングがそろわないと、その後の成長もそろわなくなってしまう。そのため、さいばいする植物にとっては、「そろう」ということがとても大切なことがある。

しかし、雑草の種子は、できるだけ「そろわないと」ということを大切にしている。

もし、野菜や花の種子のように一斉に出芽してきたとしたら、どうだろう。人間に草取りをされてしまえば、それでせんめつしてしまう。そのため、わざとそろわないようにして、出芽のタイミングをずらし、次から次へと「不齊一發生」⁶⁾するようになっているのである。

バラバラであるという性質は、人間の世界では「個性」と呼ばれるものかも知れない。雑草の世界では個性がとても重要なのだ。

(稻垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房より)

※1 酔狂：物好きなさま。
すいきょう

問――線あうおのひらがなを漢字に直しなさい。

問二――線1「たくましい雑草」について。

(1) 筆者がこのように述べるのは、雑草には一般的にどのような印象があるからですか。その理由の説明として最も適当なもの

を次の□から選び、記号で答えなさい。

A ほんのわずかな土でも、芽生えに十分な条件としてそこに太い根を張って生きる印象があるから。

B 植物の世界の中でもその種類が多く、地球上のどこにでもはびこり増え続けている印象があるから。

C 何度も手をかけて育て上げる他の植物に比べて、放つておいてこそ強さを見せる印象があるから。

D 発芽のための場所や条件を選ぶこともなく、多くの場所に芽生えて繁殖し続けている印象があるから。

(2) 実際の「雑草」の説明として最も適当なものを次の□から選び、記号で答えなさい。

A 種子は地面に落ちたところで順々にすぐ芽を出していくと

いうのではなく、条件がそろったところで発芽するという仕組みによって生き延びてきた、というもの。

イ 種子が地面に落ちてもすぐには発芽せず、他の植物の発芽と同じタイミングにならないと、一般的な植物と同様の仕組みを指摘することができる、というもの。

ウ 種子が発芽するための条件として、周囲の厳しい環境とは無関係に、決まった時期になると同じ種と呼応して一斉に芽を出す仕組みを持つ様子がうかがえる、というもの。

工 種子の発芽のためには、どんな生存競争にも負けないしたたかに生き延びる幾つかの仕組みがその内側に仕込まれているものの、それは露骨さを感じさせない、というもの。

問三 線2 「人生にも示唆的な、種子の戦略」とあります。どのような意味だと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。なお「示唆」とは、それとなく教え知らせるという意味です。

ア 見せかけの安易さに気を奪われると、思わぬ困難に足元をすくわれるものだ、ということを警告している。

イ ぬか喜びのような一時的な幸せは、決して長くは続かないものだ、という教訓を与えている。

ウ 生き延びるために、困難をうまくかわす術を身につけることが必要だ、という事実を示している。

エ 厳しい局面を経験してこそ、人は真に強い存在となるのだ、ということを考えさせようとしている。

問四

——線3 「時間が経つた種子」とあります。これは種子のどのような面を述べたものだと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 種子は自力で発芽に最適な時期を選ぶものだが、硬い種皮に傷を帯びる必要もなく、休眠することによってのみゆっくりと発芽を果たすことができる、という面。

イ いつ発芽しても良いほど熟していても、見せかけの季節の変化にごまかされずに必要な条件を待つなど、種はすぐに発芽するわけではない、という面。

ウ 種子は、周囲の植物に負けてしまわないよう、堅い種皮を一定期間保持したり、季節の変化を確実に捉えて発芽期をずらしたりする能力を持つている、という面。

エ 春の発芽のためには、一定の寒さは不可欠なものであり、少し暖かい日が訪れたとしてもそれに振り回されずに、寒い冬の訪れがあつてはじめて活動を開始する、という面。

問五

——線4 「環境を複雑に読み取って」とあります。それはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 発芽に必要な水や温度といった条件がそろうまで、覚醒することなく休眠をし続ける、ということ。

イ 人間にならって、二次休眠と覚醒とを繰り返して発芽に最適なタイミングを狙う、ということ。

ウ 発芽に向けた休眠の仕組みによって、周囲の様々な状況の変化にも柔軟に対応する、ということ。

エ 休眠と覚醒を繰り返す中で、発芽にとっての最適なタイミングの計り方を覚えて行く、ということ。

問六 ——線5「野菜や花の——芽が出てくる」とあります、「一齊に芽が出てくる」理由の説明として次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人間の側で、発芽や成育に最適なタイミングを見計らうと、いう扱い方をしているから。
- イ 複数が同時に発芽し周囲と競い合うことで、無事に成長する仕組みを持っているから。

ウ 発芽から出芽までにかかる時間がほぼ同じ種類のものを人間が選んで、種を播いているから。

エ 同時に発芽すれば、弱く成長できないものの分を補いながらそろって成長できるから。

問七 ——線6「雑草の世界では個性がとても重要なのだ」とあります、これはどのようなことですか。具体的に説明しなさい。

問八 本文について述べたものとして最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

- ア 身近な事柄を話題に取り上げて説明を展開する中で、専門用語を引用しつつ、人間にとつてのより良い生き方を説いている。

イ 適切な事例をいくつか紹介した後で、それらに共通して見られる特徴的な性質をまとめ、というパターンを繰り返している。

ウ 答者の視点を示し、その内容を紹介する中で、時折疑問を投げかけたり、人間に見立てた比喩を用いたりして論を深めている。

エ 冒頭に筆者の考えを示した上で、その裏づけとなる事実を効果的に示し、最後に再度筆者の考え方を示して強調している。

―― 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

葉どおりに行動した。²

「さあ、渡ったで。この茶色い建物が警察や」

母は私の手を引き、歩道を南へ十メートルほど行つて立ち停まり、細い路地を指差した。

主人公の父は事業に失敗し、妻である主人公の母親といさかいが絶えません。次の場面は、父と母がいつものように言い争つた後の部分です。

母は顔をしかめて立ちあがり、私を蒲団に寝かしつけると囁いた。
「早よ、寝なはれ。早寝早起きの癖をつけとかんと、小学校に行くようになつたら困るやろ」

「お父ちゃんと、ケンカせんとつてや」

うんうんと頷いて、母は襖を開めて隣の部屋に戻つて行つた。
「バスは大阪駅の向かい側で停まりますわなア。阪神百貨店のちょうど前や。そしたらそのまま御堂筋の信号を渡つて、曾根崎警察の横の道をまつすぐ行つたら、校門の前に出るんやさかい、なんぼあの子でも、三日も付いて行つてやつたら覚えますやろ」

母は怪しくなつて來た雲行きを変えようとして、話を元に戻した。

「そのまつすぐが、まつすぐ行きよらんから困るんや」「けつたいな子オやわ」

父が笑つた。私はほつとして、そのまま眠りに落ちたのであつた。母は入学式の日と、その翌日だけ付いて来てくれた。そして囁んで含めるように、きょろきょろしている私の頭を叩き、これが阪神百貨店、信号が青になるまで待つてから、この道を渡る。そう言つて、言

「ひとつめの路地やで。ここを曲がるんや。左へ曲がる。左やで。右と違う。右へ曲がつたら車に轢かれるで」

「そんなこと判つてる」

「判つても、曲がる子なんや、あんたは」

そして、路地に入つて行つた。登校時だつたので、私と同じ新入生であること示す真新しい帽子とランドセルの生徒や、上級生たちが私たちを追い越して行つた。

「この道をとにかくまつすぐ行くんやで」

と母は強い口調で行つた。右側には、バーや小料理屋やパチンコ屋などへつづく路地があつた。母は断じてそれらの路地に足を踏み入れてはいけないと命じた。そこに入り込んだら怖いおじさんがたくさんいて、私をどこか遠くへ連れて行き、もう二度と家に帰つて来ることは出来ないのだと脅した。

あくる日、授業が終わつて校門を出て来ると、いつたん帰宅し、再びバスに乗つて私を迎えた母が心配顔で立つていた。朝と同じ調子で帰り道を教え、阪神百貨店の前まで行き、

「ここは降りたとこ。ここでバスを待つてもあかんのや。ほれ、もうちょっと向こうに五十二番と書いた停留所があるやろ？ あそこから乗つて、車掌さんに定期を見せて、ぼくはここで降りるから、着いたら教えて下さいや。言えるやろ？ 言うてみなはれ」

私はランドセルの金具にしつかりとゆわえつけられて中にしまい込んだある定期券入れを出し、母に言われたとおりの言葉を繰り返した。その翌日、私はいよいよひとりで学校へ行くこととなつた。^{きのう}も、おどといも同じバスに乗つていた女の人が停留所に立つていた。バスが、橋を渡つてやつて來た。私は満員のバスに乗り、おとなたちの足元を縫つて運転席の近くに行つた。少しも怖くはなかつた。私はランドセルから定期券入れを出し、これがあれば、お金がなくとも一日に何度もこのバスで行つたり来たり出来るのだと思つた。私は定期券の数字や、読めない漢字に見入つたり、運転手のハンドルさばきを覗き込んだり、外の景色を眺めたりした。父が丈夫な釣糸三本で編んだ、定期券入れとランドセルの金具とを結びつけている長い紐を持ち、私は定期券入れを力一杯振り廻した。それは、座席に坐つていたお爺さんの手に当たつた。

「こら！」
老人は手の甲を押さえて私を叱りつけ、
「そんなもん振り廻したら、危ないやないか」
道を左折し、御堂筋を大阪駅前へと走つた。⁶

「大きな帽子やなア」
さつきの老人が笑顔で私の帽子にさわつた。
「もつと小さいのん、なかつたんかいな」
一番小さい帽子の中に新聞紙を詰めても、それはまだ私の眉の下ま
で落ちてくるのである。
「これが一番ちつちやかつたんや」

私はランドセルの金具にしつかりとゆわえつけられて中にしまい込んだある定期券入れを出し、母に言われたとおりの言葉を繰り返した。その翌日、私はいよいよひとりで学校へ行くこととなつた。^{きのう}も、おどといも同じバスに乗つていた女の人が停留所に立つていた。バスが、橋を渡つてやつて來た。私は満員のバスに乗り、おとなたちの足元を縫つて運転席の近くに行つた。少しも怖くはなかつた。私はランドセルから定期券入れを出し、これがあれば、お金がなくとも一日に何度もこのバスで行つたり来たり出来るのだと思つた。私は定期券の数字や、読めない漢字に見入つたり、運転手のハンドルさばきを覗き込んだり、外の景色を眺めたりした。父が丈夫な釣糸三本で編んだ、定期券入れとランドセルの金具とを結びつけている長い紐を持ち、私は定期券入れを力一杯振り廻した。それは、座席に坐つていたお爺さんの手に当たつた。

「ありがとう」
「そう私が言うと、まわりの何人がのおとなが笑つた。私は恥しさで下を向いた。すると、帽子がずれて目も隠れてしまつた。それではまたおとなたちは笑つた。若い勤め人ふうの男が、私の頭から帽子を取り、手に持つていた新聞紙を折つて丸い輪を作ると、汗取りの内側に巻きつけてくれた。すでに父が帽子に同じ細工をしてあつたので、男の巻いた新聞紙は汗取りの内側からかなりはみ出しが、おかげで帽子は私の額で止まつて落ちてこなかつた。私は大声で、

「顔がちつちやいんやなア。松茸の傘みたいになつてもたがな」
「こんどは、さつきよりもっと多くの人が私を見て笑い声をあげた。私は、瘦せつぼちだと言われると、顔が小さいと言われるのが嫌いだつた。

「一年三組には、ぼくよりもつとちつちやい子が三人もいてんでエ」
私は相當むきになつて言つたのである。¹⁰運転手までが振り返つて笑つた。

バスから降りると、私は春の朝日に満ちた歩道で立ち停まり、定期券入れをランドセルにしまつた。片手を背に廻してそのまま突つ込めばいいのに、私はわざわざランドセルを肩から外して道に置き、底の方にしまつた。私は不器用で、他の子供が難なくこなせることでも、かなり時間を必要とした。ボタンをかけるのも、食事を済ませるのも、靴下をはくのも。私はランドセルを背負つたが、どうも具合が悪い。服のすそが金具にひつかかってめくれ、袖も肘までずりあがつて、幾ら引つ張つても直らない。私はまたランドセルを降ろし、道に置いた。

そして歩道に坐った。ランドセルと自分の背を同じ高さにして、やつとちやんと背負うことが出来た。だが、そのために十分近くも時間を費してしまった。私は御堂筋に向かつて歩きかけた。ビルと車と人々の群れが私をたじろがせた。きのうもおとといも、母が傍にいることで、それらは物珍しく楽しい風景でしかなかつたのに、ひとりになると一変して、なにかしら冷やかな化け物みたいに見えてきたのだつた。¹¹ひととき、私は立ちすくんでいた。鉢巻をして地下足袋を履いた男が私の体をかすめて追い越して行つた。男は脇の下にアルミの弁当箱を挟んでいたが、何かにつまずいてよろめき、弁当箱を落としてしまつた。歩道に、飯の固まりと数匹のメザシ、それに梅干がひとつちらばつた。弁当箱の蓋は一本の輪ゴムだけで閉じられてあつたらしく、落ちた際、輪ゴムが切れて中味が散乱したのである。男は汚れた飯を拾い、メザシと梅干を集めて地べたを這つた。そして弁当箱につめ込み、信号を走り渡つて行つた。男が渡り切ると同時に、信号が赤に変わつた。私は、男が拾い残した飯粒を見ていた。それをあきらめて立ち去る際の、男の哀しそうな顔が私をさらに心細くさせていた。右側に、阪神百貨店のショーウィンドウが見えた。ガラスの中で何人かの男がマネキンに服を着せていた。私はショーウィンドウの前に走つて行き、男たちの作業を見物した。信号が青になつたので私は御堂筋を横切り、曾根崎警察署の前を右に曲がつた。大きな竹籠を背負つた垢だらけの老人が、道に落ちた煙草の吸い殻を拾い集めていた。長い棒にはペン先がくくりつけられていて、老人は右に歩き、左に寄つて、吸い殻を突き差した。私が老人をよけようとして右に寄ると彼も右に寄つて来る。左に寄ると、同じように左に寄つてくるのである。私は何とかし

て老人を追い越そうとし、彼が警察署の壁ぎわに寄つた瞬間、全速力費してしまつた。私は御堂筋に向かつて歩きかけた。ビルと車と人々の群れが私をたじろがせた。きのうもおとといも、母が傍にいることで、それらは物珍しく楽しい風景でしかなかつたのに、ひとりになると一変して、なにかしら冷やかな化け物みたいに見えてきたのだつた。¹¹ひととき、私は立ちすくんでいた。鉢巻をして地下足袋を履いた男が私の体をかすめて追い越して行つた。男は脇の下にアルミの弁当箱を挟んでいたが、何かにつまずいてよろめき、弁当箱を落としてしまつた。歩道に、飯の固まりと数匹のメザシ、それに梅干がひとつちらばつた。弁当箱の蓋は一本の輪ゴムだけで閉じられてあつたらしく、落ちた際、輪ゴムが切れて中味が散乱したのである。男は汚れた飯を拾い、メザシと梅干を集めて地べたを這つた。そして弁当箱につめ込み、信号を走り渡つて行つた。男が渡り切ると同時に、信号が赤に変わつた。私は、男が拾い残した飯粒を見ていた。それをあきらめて立ち去る際の、男の哀しそうな顔が私をさらに心細くさせていた。右側に、阪神百貨店のショーウィンドウが見えた。ガラスの中で何人かの男がマネキンに服を着せていた。私はショーウィンドウの前に走つて行き、男たちの作業を見物した。信号が青になつたので私は御堂筋を横切り、曾根崎警察署の前を右に曲がつた。大きな竹籠を背負つた垢だらけの老人が、道に落ちた煙草の吸い殻を拾い集めていた。長い棒にはペン先がくくりつけられていて、老人は右に歩き、左に寄つて、吸い殻を突き差した。私が老人をよけようとして右に寄ると彼も右に寄つて来る。左に寄ると、同じように左に寄つてくるのである。私は何とかし

て老人を追い越そうとし、彼が警察署の壁ぎわに寄つた瞬間、全速力でその横を駆け抜けた。母に教えられた路地はどこまで行つてもなかつた。私はもく拾いの老人を追い越すとき、曲がるべき路地の前を通りすごしてしまつたのだつた。私はうしろを振り返つたまま、もく拾いの老人が通り過ぎるのを待つた。老人はだんだん私に近づいて来た。私は銀杏並木の一本に凭れ、老人から身を隠すようにした。老人は私の足元に落ちていた吸い殻を突き差し、私を見た。まばたきもせず見つめ、私を指差した。そして突然大声で言つた。

「こら、お前、なんでいままで、わしに手紙のひとつも出さなんだんや」

私は銀杏の木のうしろに廻り、警察署の前まで逃げた。もしそのとき同じ学校の生徒らしい一群が信号を渡つてこなかつたら、おそらく私はそのまま西も東も判らなくなつて、どこへ行つてしまつたか知れどものではない。私は上級生らしい小学生たちのあとに付いて行つた。警察署の横の路地を曲がると、見覚えのある質屋の黒い暖簾が見えた。¹³その路地だけ暗く、私には一度踏み込んだら最後、二度とあと戻り出来ない道に見えた。でも上級生はどんどん進んで行くので、私はよるべなく付いて行つた。

(宮本輝『力』光文社より)

※1 もく拾い：道に捨てられたたばこの吸い殻を集めて、生計の足しにする人。

問一——線1 「私はほつとして、そのまま眠りに落ちた」とあります、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 初めて通うことになった小学校への道筋を細かく知ること

ができたので、ほつとしている。

イ 小学校に通うのに早起きが必要だが、ちょうど良く早寝が出来そうに眠くなつたので、ほつとしている。

ウ 父親の機嫌が悪く、また母親とけんかが起きそだつたが、父親が笑つたので、ほつとしている。

エ 初めての小学校に通うのは不安だったが、明日は母親がついてきてくれるというので、ほつとしている。

問二——線2 「行動した」・3 「帰宅し」とあります、その主語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 母 イ 父 ウ 上級生
エ 私 オ 私と母

問三——線4 「きのうも、／＼立っていた」とありますが、ここ

から「私」のどのような様子が読みとれますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 今日は一人で学校に行くので、道を間違えないように、昨日まで見てきた風景や人に注意深くなっている。

イ いよいよ一人で学校に行くことになったので、これまで話したことのある人を探している。

ウ 同じバスに乗っていた女の人が自分と同じ停留所で降りる

ので、ついていけばいいと思っている。

エ バスには男の人ばかり乗っているので、少しでも優しくしててくれるだろう女人を見つけようとしている。

問四——線5 「『こら！』／＼危ないやないか」と怒鳴った」・6 「『大きな帽子やなア』／＼笑顔で私の帽子にさわった」とあります、この間の「老人」の気持ちの変化の説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 最初は子どもの乱暴な振る舞いに対して、大人としてしつぶ叱つたが、その子どもがひどく反省している様子が見えたので、優しく接してあげようと気を取り直している。

イ 最初は落ち着かない子どもの様子に、我慢が出来ずきつく叱つたが、そのうち知り合いの子どもであることに気づき、バスの中での振る舞いを優しく教えようとしている。

ウ 最初は定期入れが手に当たった痛みのあまりに怒鳴つてしまつたが、その子どもが背を向けてひどくふてくされてしまつたので、怒りを抑えて話しかけようとしている。

エ 最初は子どもの振り回した定期入れが手に当たつたのでかつとして怒鳴つてしまつたが、よく見ると真新しい小学校の帽子から新一年生であると分かり、優しく接しようとしている。

問五 線7 「まわりの何人かのおとなが笑った」・8 「それでまたおとなたちは笑つた」・9 「さつきよりもっと多くの人が私を見て笑い声をあげた」・10 「運転手までが振り返つて笑つた」とあります。これらの描写からこのバスの中のどのような様子が読み取れますか、その説明として適当でないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」がむきになつて、顔が小さいと言われたことに反論した様子に、バスの運転手を含めた大人たちは微笑ましさを感じている。
- イ 帽子が大きすぎると老人に言われて「一番ちつちやかつたんや」という「私」の言葉やふるまいに、大人たちは小学一年の新入生らしい初々しさを感じている。
- ウ 最初は「私」と老人のやりとりにおかしみを感じていた大人たちだったが、いつのまにか大人同士の世間話を楽しむようになつていて。
- エ 若い勤め人が新聞紙を巻きつけてくれたおかげで帽子はずり落ちなくなつたが、それを「松茸の傘みたい」と表現した言葉や、その通りの「私」の様子を大人たちは和やかに見ている。

問六 線11 「ひととき、私は立ちすくんでいた」・12 「男の哀しそうな顔が私をさらに心細くさせていた」とありますが、この間の「私」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 母親と一緒に来たことのない風景を見て不安になるとともに、弁当を落とした男のみすぼらしさが父親の姿と重なつてしまつたため、自分の将来についても不安を感じている。

イ 母親が一緒でないため、学校への道筋に不安を感じるうえに、落とした弁当を拾いきれずに去つていった男の哀しい顔に、生きることの大変さを見た気がして不安を感じている。

ウ 昨日まで母親と一緒に来ていた場所が、今日は一人で来ているため新鮮で物珍しく見えたが、弁当の中身の貧しさや、落とした男の哀しい顔を目の当たりにして不安を感じている。

エ 途中まで母親に付き添われてきたが、バスを降りたら一人で学校に行くことになるため、途端に風景がよそよそしくなり、またぎすぎずした町の人々の様子に不安を感じている。

問七 線13 「その路地だけ暗く、私には一度踏み込んだら最後、二度とあと戻り出来ない道に見えた」とありますが、「私」がこのように思う根拠になることを述べている部分を探し、最後の五字を抜き出しなさい。(必ずしも一文とは限らない。)

- 高2 - 10 -

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、^{※1}西八条の舍人^{とねり}なりける翁、賀茂の祭の日、^{※3}一条東洞院の辺りに、

ここは翁が見物せむする所なり

人寄るべからず

^{※4}といふ札を、曉より立てたりければ、人、かの翁^{じよ}が所為^{しよ}とは知らず、
「陽成院^{やうせいいん}、もの御覽せむとて、立てられたるなめり。」とて、人寄らざ

りけるほどに、時になりて、この翁^{※5あさぎ}、浅葱かみしも着、高扇使ひて、
したり顔なる氣色^aにて、ものを見けり。人々、目を立てけり。

陽成院、このことを聞こしめして、件の翁を召して、院司^bにて問は
せられければ、「齡八十^年になりて見物の志さらにはべらぬが、今年、
孫にてさうらふ男の、内藏寮の小使にて祭りを渡りさうらふが、あま
りに見まほしくて、ただ見さうらはむには、人に踏み殺されぬべく覺
えて、やすく見さうらはむために、札をば立ててはべる。ただし、院
の御覽ぜむよしは全く書きさうらはず。」と申しければ、さもあるこ
ととて御沙汰^{さた}なくて許りにけり。

これ、肝太きわざなれども、かなしく支度しえたりけるこそ、をか
しけれ。

『十訓抄（巻一・二八）』

問一

——線 a 「したり顔なる氣色」・ b 「さらにはべらぬが」と

あります。が、ここで意味として最も適当なものを次の中からそ
れぞれ選び、記号で答えなさい。

a したり顔なる氣色

ア 偉そうな様子
イ 後ろめたそうな様子
ウ 恥ずかしそうな様子
エ 得意げな様子

※1 西八条の舍人：西八条は平安京の通りの名。舍人は、ここで

は朝廷に仕える者のこと。

b サらにはべらぬが

ア いつそう強まつたので
イ ないわけではないので
ウ まったくありませんが
エ もちろん持っていたが

※2 賀茂の祭：陰曆四月に行われる賀茂神社（京都府）の祭礼。

飾りに葵を用いたので葵祭とも呼ばれる。その歴史は古く、
京都三大祭りの一つである。現在も多くの見物客でにぎわう。
一条東洞院：一条大路と東洞院通りの交差したところ。葵祭
の行列の見物場所として有名。

※4 陽成院：第五十七代天皇。十七歳で退位させられた後、
八十二歳まで院として存命。この時すでに高齢であった。

※5 浅葱かみしも：薄藍色の着物と袴。年配者が常用する色。

※6 院司：院の御所に仕えた役人。

※7 内藏寮：宮中の財物を司る役所の下仕え。

※8 祭りを渡りさうらふが：祭に参加して通りますので。

問二 線1 「かの翁が所為」とあります、どのようなことを指しているのですか。三十字以内で説明しなさい。

問三 線2 「人々、目を立てけり」とあります、その様子の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 陽成院が祭の見物をする場所と思っていたので、翁のこと を院であると勘違いして散った。

イ 陽成院が祭の見物をするはずの場所に、何も知らない翁が入り込んでいることに憤慨した。

ウ 陽成院が祭の見物をする場所と思っていたところに翁がいたので、驚いた。

問四 線3 「さもあること（）許りにけり」とあります、その説明として適当なものを次の二つ選び、記号で答えなさい。

ア 翁は陽成院の名を騙つたわけではないので、処罰にはあたらない。

イ 特等席で祭が見物できたのだから、翁が調子に乗るのも仕方がない。

ウ 孫の晴れ姿をひと目見たいという翁の気持ちは、わからぬくもない。

工 翁に対する見物人たちの理解と手助けがあつたことは、感心なことである。

オ 翁は身分を偽つて見物人たちを欺いたため、踏み殺される恐怕は十分にある。

問五

この話に対する語り手の感想として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 翁が個人的なことに院の権力を利用した点は、図々しいことである。

イ 祭見物の人々が翁のいたずらにまんまと引っかかったのは、滑稽である。

ウ 翁の話が嘘であると気づきながらも、騙されたふりをして許した院の寛容さは、すばらしい。

工 翁のしたことは大胆であるが、孫への愛情がそのような行動に向かわせたという点は、興味深い。

国語

解答用紙 (高校第一回)

受験番号

氏名

得点

一

問

一

とくさく

(い)

よそく

(う)

げきてき

(え)

さいばい

(お)

ぜんめつ

問

八

問

七

問

三

問

四

問

五

問

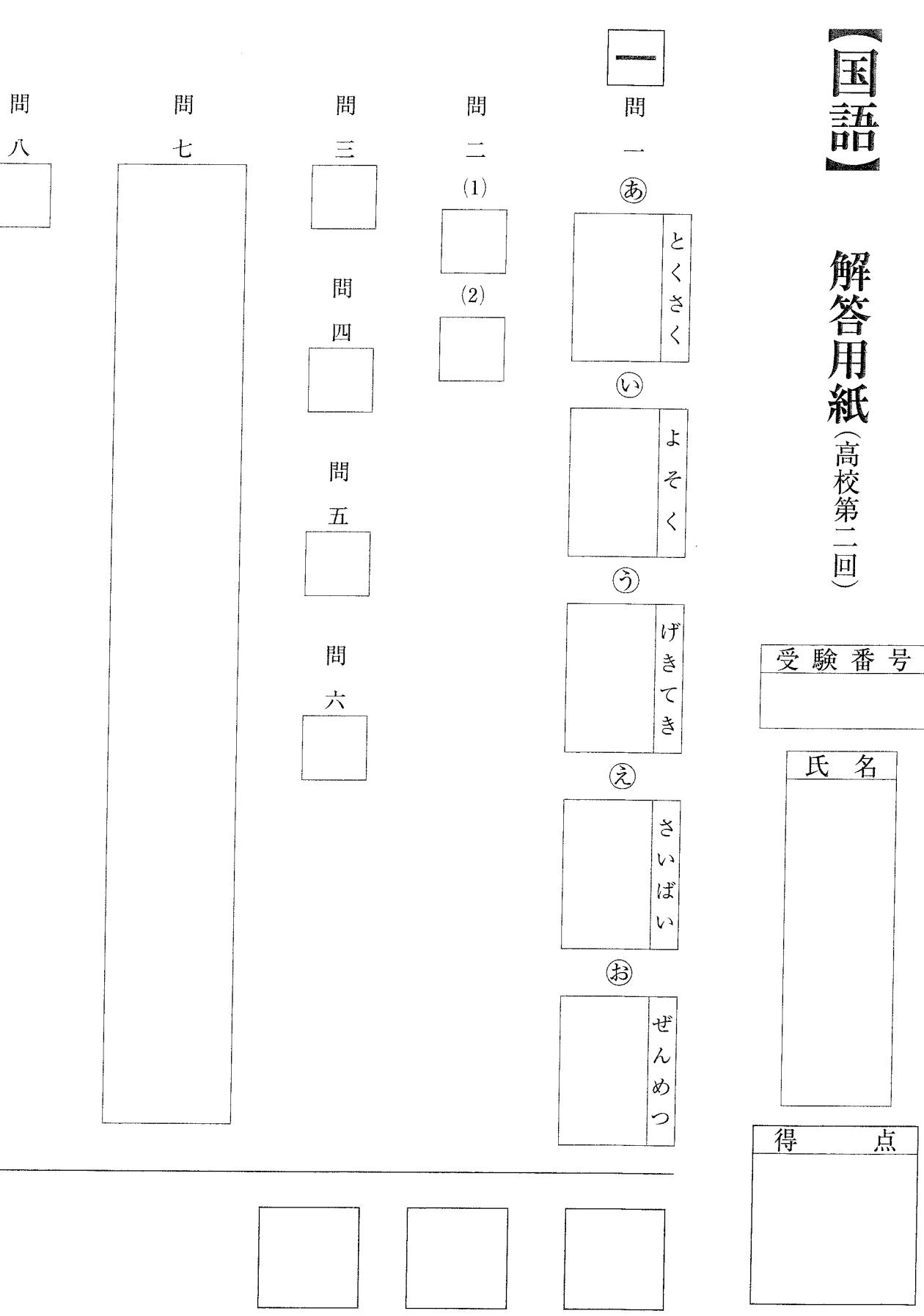
六

問

二

(1)

(2)



問 三 <input type="text"/>	問 二 <input type="text"/>	問 一 a <input type="text"/> b <input type="text"/>	問 六 <input type="text"/>	問 二 2 <input type="text"/> 3 <input type="text"/>
問 四 <input type="text"/>	.	問 七 <input type="text"/>	問 三 <input type="text"/>	問 四 <input type="text"/>
問 五 <input type="text"/>	問 五 <input type="text"/>		問 五 <input type="text"/>	

